

## 子の意欲を大切に——子育て、一人目の接し方

一人目は、親にも始めての子育てです。

親も緊張するし、余裕がないまま最初は無我夢中で頑張っ、過保護・過干渉になりがち。

1歳半から5歳にかけて自分でやりたい時期がある。

できない事実だけを見ていら立つ親は、服のボタンをはめようとする「こうやるのよ」と手を出す。

初めての子には、余計にやらせないからいつまでもできないまま。

それなのに、「だめね、しっかりして」と口だけでしつけようとするので萎縮してしまう。

親が、「ぐず」と思うとほんとうにそうなる。子どもが親の気持ちを察知して不安になる。

不安だと、どじも踏む。すると親は腹を立てる。

意欲もなくす。下の子に意地悪もする。親は、さらに「お兄ちゃんなのに」と怒る。

悪循環ですね。

二人目以降は、しっかりして見えます。

育つ道筋がわかってくるので、親もゆったり構えられる。

親の気持ちにゆとりが出ると、子どもも比較的自由になれて、より活発になる。

できると自信が持てて、さらに意欲がわく。

好循環ですね。

必要な心構えは。

子どもはそもそも自分で育ちたいと願っています。

一人でできなくても親がやってあげるのではなく、その子がしたいようにできるよう、手伝ってあげて。

生れ落ちた瞬間から子は、親とは別の人生を歩いています。

子育ては、「子どもが親から離れていくための手助け」。

いのちを守ること、情緒の安定を図ることなどの保護は必要でも、先取りの過保護はいりません。

親もきりきりせず落ち着いて、まずは子どもを信じてあげてください。

名古屋芸術大学子ども発達学科長

教授 野原由利子 先生

(中日新聞 平成21年1月7日 抜粋)

### 思春期初期の子どもたちは、

- ① 基本的な生活習慣を身につけさせること、
- ② 子どもの「自分でやる」という欲求や自立的行動を励ましてやること、
- ③ 自分で決めたことをやり遂げる意志を持たせること

また、社会的なルールへの基本的な心構えを形成する重要な時期です。第2次反抗期の自我が芽生えるこの時期には、身体の変化や心の変化が数多く現れてきます。

子どもたちの心を受け止められる温かい家庭づくりに、ご協力をいただけるようお願いいたします。

子どもたち自身で、社会的に自立していこうとする意欲や芽を育てていきましょう。